

# 感謝を伝える

小坂中学校 三年 石丸 優菜

あなたにとってお母さんとはどんな存在ですか。毎日の感謝はちゃんと伝えられていますか。お母さんがいることは私にとって、当たり前だと思っていました。お母さんが仕事に行ったり、家事をしたりする姿を見るのは日常的でごく普通のことでした。小さな時から不自由のない生活を送らせてもらえました。ですが、私は最近一つ思ったことがあります。それは、本当にそれを当たり前のことのように思っているのかな、と。

お母さんは、朝四時半に起きて四人分のお弁当と、私たちの朝ご飯を作ります。みんなが家を出た後、会社に向かいます。私がバスケの夜練がある日は、練習が終わるまでに食材の買い出しをし、私を迎えに来てくれます。遅い日には、家に帰る時間は十時半になります。帰ってからも、洗濯物を干したり、食器の片付けなどをしたりしていると寝るのは深夜一時を過ぎます。毎日このような生活を続けているお母さんは、ただでさえ忙しいのに私たちのために働いていてすごいなと思いました。ですが、その反面心配にもなりました。私たちのためにやってくれていることはわかっているのですが、休まなくていいのかなと思いました。だから、私は洗濯物や食器洗いぐらいは自分でもできるので手伝おうと思いました。

でも私は、「手伝うよ」や「いつもありがとう」という言葉をなかなか伝えられません。いざ言おうとすると、恥ずかしくなるのです。何が恥ずかしいのかもわかりませんが、この言葉を言うだけでお母さんは少しでも楽になることは分かります。ありがとうは感謝を伝えられる言葉なので、言いたいのですが、なぜか言えませんでした。感謝の気持ちがあっても、尊敬をしても、時には喧嘩をしてしまいます。怒られた後、私は後悔します。大体は私がしっかり言う事を聞かないからです。でも、わかっているのです。怒ることは大変だし、怒った後、疲れを感じることも。わかっていると言われたことをすぐ行動に移したり、何度言われても忘れてしまったりしてしまう。私の悪い癖だなと思いました。きっとこの癖を直したら、お母さんも楽になるのだらうと思いました。言われたことを行動に移すだけなら、今からでも直せます。最初は忘れることもあるけど、お母さんのことを思って、頑張ります。

こう思うようになったきっかけは、お母さんの涙です。最近私は、お母さんがおばあちゃんの前で泣いていたところを見ました。泣いていた理由は私でも分かりました。休みがなくて、体力的にも気持ち的にも疲れているんだらうな、と思いました。お母さんはいつも私たちのために時間を使ってくれています。そんなお母さんの支えになれるように私も生活したいと思いました。

これから私は、お母さんが私のために叱ってくれたり、家事をしてってくれたりすることが当たり前とは思わず、感謝を伝えることができるようにしたいです。「ありがとう」という言葉は感謝を一言で伝えられたり相手を思いやりたりできる、とても大切な言葉です。正直このお母さんについて書いているときも、どこか恥ずかしくてなかなか書けませんでした。でも、この主張を書くごとに、「ありがとう」を伝える大切さについて見つめ直すことができたと思います。あなたは、今感謝を伝えたい人はいますか。心のこもったありがとうは言われた側もきっとうれしいと思います。言い逃してしまうと、きっと後悔するあなたがいると思うのです。お母さんだけではありません。家族や友達、先生たち。いつも身近にいる当たり前の存在の多くの人に「ありがとう」を心を込めて伝えたいです。